

第3章 戦略の目標

第1節 文京区が目指す生物多様性都市ビジョン

第2節 基本目標



第3章 戦略の目標

第1節 文京区が目指す生物多様性都市ビジョン

都市にある文京区では、日々の生活や仕事（普段の行動）に関連する「暮らし」とともに、都市が発展するためのまちの開発や身近な緑の創出等に関連する「まちづくり」の視点での生物多様性を考えることも重要です。

本戦略では、10年後に到達することを目指す文京区の姿を、『生物多様性都市ビジョン』として、以下のように定めます。

生きもの、ひと、くらしがつながり
豊かな文化を育むまち

また、このビジョンを実現するために、「暮らし」と「まち」の姿を、以下のように目指していきます。

■目指すべき「暮らし」の姿

生きものとひとのくらしがつながり、新たな歴史と文化を紡ぐまち

文京区民の暮らしは、地球全体の動物や植物等のすべての生きものによる恵みに支えられており、日常生活の中でその恵みを大量に消費しています。これらの恵みは、人が生きる上で必要不可欠な衣食住の提供に限らず、四季折々の花を楽しむお祭りや、季節の移ろいを感じることで生まれる詩や俳句等、歴史・文化を形づくる基盤でもあります。



日々の暮らしが、地球上の生きものによる恵みに支えられていることを区民の誰もが理解し、意識しています。

多様な生きものたちの存在が、人の暮らしに必要な不可欠なものとして認知され、今まで以上に身近なものとして人の暮らしとつながることで、人の心や暮らしがより豊かなものへと成長し、自然の恵みを守る行動へとつながります。自然を思いやり、自然からさまざまなものを享受しながら、生きものと人との新たな歴史と文化を紡ぎ出していく暮らしを目指します。



出典) 認証マーク等は「生物多様性民間参画ガイドライン(第2版)」(環境省)より引用
※認証マーク等は一例です。使用方法は各認証団体等のHPをご参照ください。

認証商品等の生物多様性に配慮した商品を選んで購入する等、日々、自然を思いやる行動を心掛けています。

■目指すべき「まち」の姿

多様な生きもの、水、みどりとともに豊かに発展するまち

文京区に古くから残されている豊かな水やみどりは、長い歴史の中で、大火や戦火等を潜り抜けながら、それぞれの時代の先人たちが、守り・創り上げてきたものです。また、現代のまちの持続的な発展においても、新たな水・みどりが生まれ、育てられています。

このように、時代も環境も異なる中で生まれる水とみどりが互いに結びつき、季節の移ろいや自然の息吹を身近に感じられる、生物多様性都市を目指し躍進していきます。

生きもの、ひと、くらしがつな

生きものとひとのくらしがつながり、新たな歴史と文化を紡ぐまち

生物多様性の拠点

「歴史・文化に培われた緑」



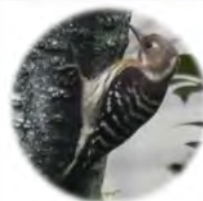
東京大学大学院
理学系研究科附属植物園
(小石川植物園)



小石川後楽園
写真提供) 公益財団法人東京都公園協会



六義園
写真提供) 公益財団法人東京都公園協会



コゲラ



ヒダリマキマイマイ

「身近な緑」



ナミアゲハ



ジャコウアゲハ
本土亜種



関口台公園



本郷給水所公苑



アオスジアゲハ

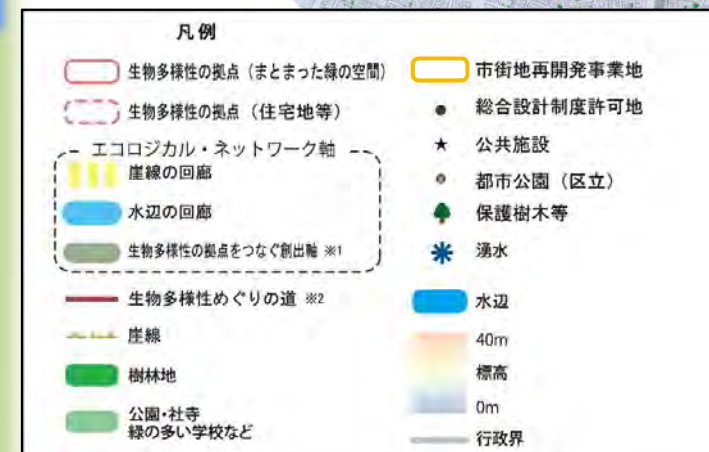
開発による緑の創出



順天堂大学医学部附属
順天堂医院



トヨタ自動車
東京本社ビル



保護樹木等



本郷の大クスノキ

参考資料) 「文京区都市マスタープラン (平成 23 年 3 月)」「文京区緑の基本計画 (平成 11 年 3 月)」
 ※1 「生物多様性の拠点をつなぐ創出軸」は、「施策の方向性 10 エコロジカル・ネットワークを形成する」(P84)を参照
 ※2 「生物多様性めぐりの道」は、文京区の「緑の散歩道」を参考に、崖線の緑や湧水、身近な緑などに触れながら、生物多様性の拠点となっている緑をめぐるることができるコースです。

がり 豊かな文化を育むまち

多様な生きもの、水、みどりとともに豊かに発展するまち



生物多様性の拠点をつなぐ
エコロジカル・ネットワーク軸

「崖線の回廊」



須藤公園
と湧水



肥後細川庭園



神田川



モツゴ



カルガモ



播磨坂さくら並木



特別区道文第 897 号



シジウカラ



オオシオカラトンボ

使用データ
国土地理院基盤地図情報
マルチバンド航空写真(2009年10月・11月撮影/株式会社国際航空)
平成23年度土地利用現況(東京都都市計画基礎調査)



0 0.5 1km

マップ提供：中央大学理工学部人間総合理工学科環境デザイン研究室

第2節 基本目標

ステップ1 理解・浸透

基本目標Ⅰ 「生物多様性」を身近なものとしての理解と浸透・定着を図る

- ・ 生物多様性の概念の理解を促します。
- ・ 「生物多様性」の重要性について、区民・事業者の共通認識として定着させます。
- ・ 生物多様性が人の生存には不可欠であるとともに、区民や事業者の行動が影響を与えていることを、身近な具体的な実例を通して実感してもらい、生活の中に浸透させます。

ステップ2 日常生活でできることから実践

基本目標Ⅱ 生物多様性に配慮した生活スタイル等に転換し、日常の中で実践する

- ・ 日常生活で実践できる生物多様性の取組の周知を図り、他分野とも連携しながら、区民が主体的に実践できる環境を構築します。
- ・ 生物多様性に配慮した事業活動への転換を促します。

ステップ3 生きものたちの生息空間の継承・創出

基本目標Ⅲ 生物多様性に配慮したまちづくりに各主体が取り組み、身近に生物多様性を実感できるまちを実現する

- ・ 歴史ある水と緑の拠点と、それを結ぶ身近な水と緑の保全と創出に取り組み、戦略的にネットワーク化していきます。
- ・ ネットワーク化には区民や事業者も参加し、身近な生物多様性づくりに取り組むまちを実現します。

基本目標Ⅳ 生物多様性と都市の発展・再生をバランスよく持続する

- ・ 都市が発展するための開発の際には、空地を創出し、まとまった緑化空間を設けていきます。
- ・ 今後必要となる都市基盤の更新の際は、緑を再生することにより、緑のネットワーク形成に配慮します。
- ・ まちが発展しながら、開発等で緑をつなげることによって、生きものの多様性に寄与していく将来に導くことが、文京区が目指す持続可能な都市の姿です。